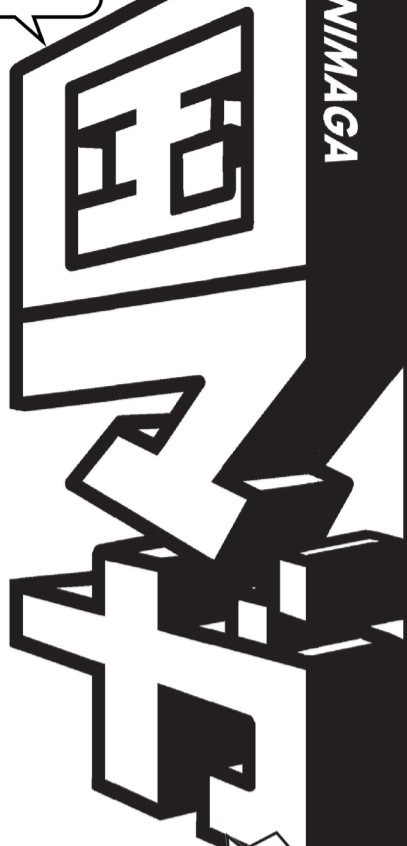


特集「年忘れ、ほろ酔いこどもの国の町」

毎月第1週発行
こどもの国系
情報誌!

KUNIMAGA



いつもの町の酒場放浪記

◆こどもの国、ドラッカーたちの旋

こどもの国で飲む。それはこの町に住む人々だけに許された贅沢なのかもしれない。有名な老舗や、飲んべえに愛される横町があるわけじゃない。でも、この町にはこの町なりの、飲み哲学がある。この国の飲み方、こころでひとつまとめてみようじゃないか。

◆聖地はここ

とにかく、何を置いても紹介したいのがおそば「なごみ」。そば屋で飲むという敷居が高いイメージがあるが、夜のこの店はまさに大衆割烹といった様子。天ぷらや一品料理は言わずもがな、こだわりの鮮魚メニューも充実。棚に並ぶ豊富な日本酒や焼酎の銘柄を見れば、ここが「国飲み」の聖地であることが納得いくだろう。ただ、注意して欲しい。この町で唯一に近い飲み屋の週末は予約で一杯だ。

◆洋酒を極める

ところで洋酒を味わいたいときはどうすれば良いのだろうか？ そんなときはイタリアンのお店を上手に使用したい。「バツカス」や「イルフィリオ」といったお店がこの町にはある。両店ともにワインはなかなかの充実具合、味の好みや産地などを店員さんに教えてもらいながら銘柄を見つけていきたい。もっと本格的にお酒を極めたいなら、青葉台まで足を伸ばしてみよう。バー「ソウルカクテル」があなたを迎えてくれるはずだ。詳しくは本誌裏面のオオキの記事を見て欲しい。

◆この町と共に飲む

これらの店が全部閉まったら？ 「すき家」に行け！ 中瓶と牛皿で満足できるのも酒飲みの才能だ。それだけではない。スリーエフ、サンクス、セブンイレブン、町のコンビニは酒飲みの強い味方だ。お気に入りの酒とつまみを持って、深夜の公園にぶらりと行くのも乙なものだ。でも、絶対に騒いだりして近所迷惑にならないように。この町で飲むというのは、この町と共に飲むということだから。年の瀬迫るこどもの国、まずは一杯いかが？



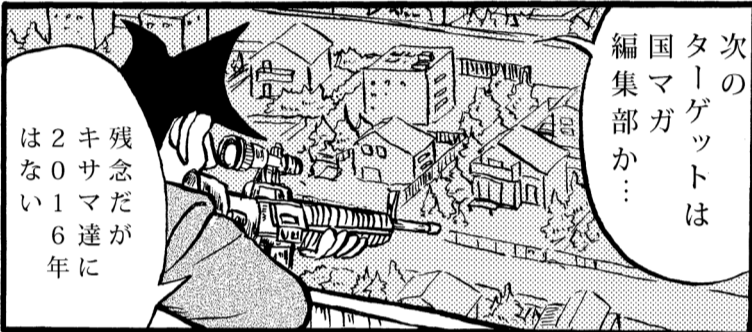
「なごみ」では日本全国の銘酒のボトルキーブが



ビールさえあれば飲み屋にすることができる

Vol.33
2015年12月号

¥0



次のターゲットは国マガ編集部か...

残念だがキサマ達には2016年はない



距離2200...風力2...

かとうしんすけ

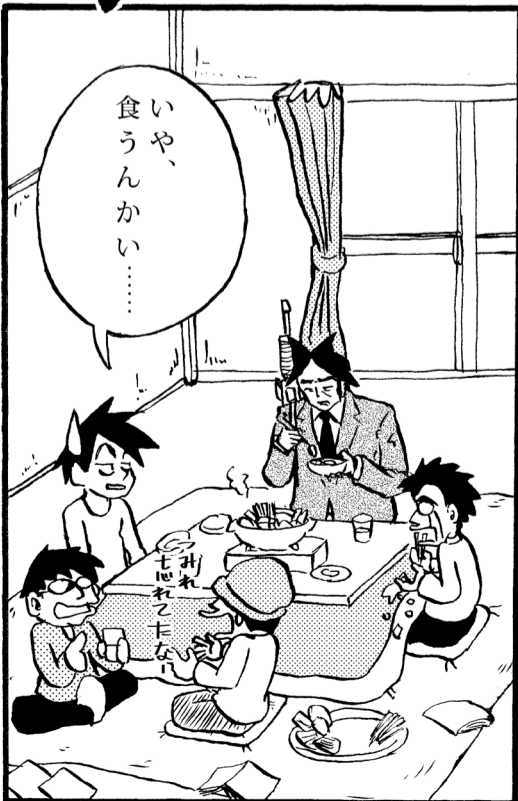


お肉、たつぷり、おいしいな

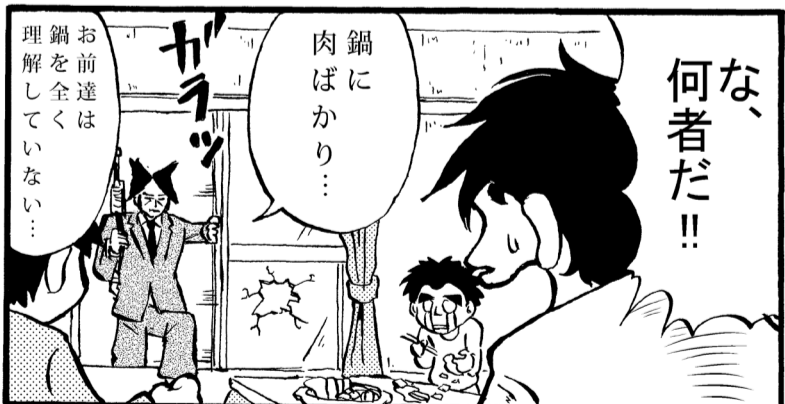


それではこれより国マガ忘年会を始めます!!

みんな鍋をつつこうではないか



いや、食うんかい...



な、何者だ!!

お前達は鍋を全く理解していない...

鍋に肉ばかり...



...10%の魚と20%のキノコ...そして、30%の白菜...

残る40%は...「つみれ」だろう

忘年会考 — 幹事はやりたくない！

今年も早いもので、もう残すところ1ヶ月となった。思わず、決まり文句で「早いもので」なんて書いてみたが、今年の始めのことを思い出そうとしてみても、まったくピンとこない。ならばと、スマホの写真ファイルを1月の日付まで指で必死に送って送って、今風というならスワイプスワイプして、見てみる。すると、満面の笑みで、「あつたかいんだからあー」のポーズをとる自分の画像を発見した。うわく恥ずかしい。たぶん、酔っぱらって撮ったヤツだ。

しかし、このポーズが何のポーズなのか思い出すまで、ちょっと時間がかかった。このギャグって今年だったのか。ずいぶん昔のように感じられるぞ。

年の瀬ということで、今月は忘年会がこちらで開催されるだろう。

しかし、そんなことやらなくなつて、たいていの人は、もう今年のことなんてちゃんと忘れてるんじゃないのか。

さて、その忘年会だが、この言葉を聞くだけでわたしは憂鬱になる。



コラム
育ち
サリー志村

飲み会の幹事ってヤツが超ニガテだ。特にビジネスっぽいヤツ。たんに集まって飲むときの連絡役ぐらいならなら、まだ良い。しかし、勤め人になると、いろいろ面倒なことがあるのだ。事前に欠席すると言っていた人が、当日になって急に会場に参上するなんてまた序の口。

宴がはじまれば、おエライさんから、実は鶏肉は食べられない、会費を抑えろ、××さんと座席を離してくれ、靴を脱ぐのがイヤだ、掘りごたつは座りにくい、チリ産のワインは飲めない、シメには美味しいコーヒーが飲みたいね、と、無理っぽいリクエストがじゃんじゃん寄せられる。

今、あげたものは、すべてわたしの実体験だが、それぞれは本人たちにとってささいなことだが、幹事にとってみれば、超面倒なことだ。上下関係を差し引いて考えても、そのレートがまったく釣り合わない。つべこ

べ言わずに黙って飲みやがれ、と一喝してやりたくない。たまに幹事を率先してやっている人を見るが、あれは何が楽しくてやっているだろう。いつかノーベル賞でももらうつもりでガンバってるんじゃないのか。

ああ、そんなことを考えなくても良かった学生時代が懐かしい。テキストに集合して、店の予約なしで入れるところに入ろうぜ。まったくもって気楽だった。

そのころの同級生に、大人になってタイヘンになったよなあ、と聞くと、自営業の集まりは今もそんな感じだよとのこと。業種によるのだろうか。本当にうらやましい。

読者のなかにも、幹事なんて引き受けてしまつて、出欠の確認や店の予約など、あたふたしている人もいるかもしれない。ほんと、投げ出したくなりますよ。ねえ。

その上、余興をやれ、なんて言われた日には最悪な気分になる。今年は、とりあえず、「あつたかいんだからあー」つてやつとげば、恥ずかしいって？ 大丈夫、1年後には絶対、忘れていきます。

ソウルカクテル



Soul Cocktail's (ソウルカクテル)
 日~木 18:00 - 3:00 / 金~土 18:00 - 4:00
 045-989-3985
 横浜市青葉区青葉台 2-5 アレックスビル 3F
 http://www.soulcocktail.com/

◆バーへようこそ
 この忘年会シーズン、友人や同僚達とワイワイ飲むお酒もいけれど、時には一人静かに飲みたいもの。青葉台駅の目の前、アレックスビル三階にあるバー「Soul Cocktail's」ソウルカクテルはそんな大人の為にゆったりくつろげる空間とあなたにぴったりのお酒を提供してくれます。照明の抑えられた店内は優雅で落ち着いた雰囲気。この日の一杯目は「フルーティーで甘いカクテル」を注文。注文を受けてシェイカーを振る姿、一挙一動がピシッとキマッていてホレホレします。そして出てきたのは「ピーチツリーフーズ」というカクテル。ピーチの甘みにソーダの爽やかさ、隠し味にパッションフルーツを加えスツキリとした飲み口です。

◆魂の一杯をあなたに
 バーに来る人は何を求めてやってくるのでしょうか。ただ酔えればいいというだけではありません。せわしない生活から切り離された非日常、安らぎの場所を求めてバーを訪れます。心がため息をつくような時、家に帰る前の一杯の一杯が気持ちをリセットしてくれる。「そんなお客様の気持ちに寄り添うようにありたい」と青池さんは言いました。その想いが店名の由来でもある「魂の一杯」を提供させるのです。

二杯目は「初心者にも飲みやすいウイスキー」をリクエストし、「ブラックブッシュ」をロックでいただきました。口に広がる芳醇な香りと味わい。癖も少なく確かに飲みやすい口当たり。このお酒の特徴は四百年以上続く「最古の蒸留所」で作られていること。伝統や歴史を味わうというのもお酒の楽しみ方の一つ。こんな風に自分のお酒を見つけれられるのもバーならではです。

◆充実のサービス
 こちらはバーには珍しく食事のメニューも豊富で、お酒と一緒においしいパスタやピザを食べられます。お酒が苦手な方にはノンアルコールのカクテルも取り揃えています。会計時には梅こぼ茶を出してくれるのも他にはない嬉しい心づかい。バーという格調高く入りづらいイメージが崩れませんが、友人や恋人とでもどうぞ気軽に足を運んでください。



深夜の牛丼チェーンで、瓶ビールという選択をしていた。お新香の盛り合わせと、牛皿をつつく。既にかんりの量の生ビールと、日本酒を都内の居酒屋で空けてきたにも関わらず、まだ俺は酒を欲していた。べつにこれ以上酔いたいわけでもないが、酔い流さないと後悔に潰されそうだった。

出版社の最終面接、俺はひとつの過ちを犯した。あの質問への答えは決まっていたはずなのに、思っていたことを言ってしまった。
 「君、みどり文学賞の最終選考に残るほど、文学を愛しているのだから、編集者になりたいって書いておいて、本日は編集者より小説家になりたいんじゃないの、この書き方は？」
 面接官は肩肘つき、履歴書に目を通したままボソリと呟いた。正解だった。小説を書いて何度応募しても、いつも阻まれてきた最終選考の壁。そこを超えるために、俺は出版業界へのコネクションを必要としていた。出版社で編集者として働きながら、業界構造やコネクションを把握し、最も出版に近い場所へアプローチしていく。それが、小説家として成功するためには必要だった。だが、出版社は小説家志望者の採用を嫌う。編集者と作家の線引きが崩れることは、編集という仕事の根本が崩れる。この国の出版業界の伝統として、超えてはいけないうらいんがそこにはある。それは理解していたから、とにかく徹底して小説を諦めた人になることを決めて面接には臨んでいた。
 「いいえ、小説家になることはもう諦めました。これからは編集者として文学を作る人間になりたいんです」
 面接官はニヤリと笑った。

「なるほど。つまり、所詮その程度の思いだったわけだね。それじゃあ最初から小説家になどなれないと思う。さっさと諦めた方がいい」「そうですね、編集者として、小説とは何かを徹底的に考えながら、引退したあとなどに小説でも書ければ...」
 そう言いながら俺は、しまったと思っていた。完全に挑発に乗って作家への願望を出してしまった。編集者は立ち上がった。
 「まだ始めてもない仕事の、引退後のことなんて考えてちゃだめですよ。やっぱり君、本音は小説家になりたいんだろ？俺が一体何人の小説家志望者を見てきたと思う？この世の中にはどれだけ小説家になりたい人間がいると思う？わかるんだよ臭いで。うちは小説家志望を採らない。おつかれさま」
 ビールを喉に注ぐ。あの時、なぜ引退したら小説を、なんてことを口走ったのか。その程度の思い、というあの言葉によって、あらかじめ決めていたルールを守りきれなかった。
 「すいぶん、楽しそうに飲みますね」
 ロボットのようにしか見えなかった店員が、ボソッと舌をかけた。牛丼チェーンの店員が人間の言葉を話すのを見て気がした。楽しそう？俺は苦笑いしながら考えていた。俺は、編集者になれなかったことが、楽しいのだろうか。店の奥に消えていく店員をじっと見つめながら、安い肉を、ビールで流しこんだ。

短編小説
 母の記憶
 安原マヒロ

深夜の牛丼チェーンで、瓶ビールという選択をしていた。お新香の盛り合わせと、牛皿をつつく。既にかんりの量の生ビールと、日本酒を都内の居酒屋で空けてきたにも関わらず、まだ俺は酒を欲していた。べつにこれ以上酔いたいわけでもないが、酔い流さないと後悔に潰されそうだった。

おぎぬまX 劇場! #19

迷演
 シンクロ
 飲酒

国マガ編集ムック『THE こどもの国』発売決定!
 ★特集は全国の「こどもの国」を回ってみたレポート関東編!
 ★おぎぬまXがレポートする関東こどもの国行脚番組DVDが付属!
 ★2014年4月~15年3月の『国マガ』の漫画、小説、コラムをまとめて掲載!
 ★こどもの国周辺のお店情報がたっぷり!

クラウドファンディングにご協力いただき本当にありがとうございます!

■こどもの国地区
 ・コンビニ「スリーエフ・こどもの国駅前店」
 ・パン「MONT」
 ・カフェ&ランチ「おぐに」
 ・歯科「こどもの国歯科」
 ・そば「なごみ」
 ・イタリアン&バー「Bacchus」
 ・コーヒー「GRIVE」
 ・ケーキ&喫茶「セントボーリア」
 ・焼肉「炭火焼肉はち」
 ・カフェ/カレー「なつうめ」
 ・板金/塗装「井組自動車工業」
 ・ドッグサロン「アンシャンテ」
 ■奈良北地区
 ・ハムソーセージ「シュタットシケンかくれが工房」

■本/文具「昭和書房」
 ・パン「Coonie」
 ・とんかつ「かつ元」
 ・接骨院「川本鍼灸接骨院」
 ■青葉台地区
 ・パン「COPPET」
 ・ラーメン「246亭」
 ・接骨院「あぶる鍼灸接骨院」
 ・美容室「カットクラブKOGA」
 ・BAR「Soul Cocktail's AOBADAI」
 ■田奈地区
 ・不動産「太平プラン」
 ・アートスペース「赤い家」
 ■町田市
 ・古着「ULTRABO」

国マガ配布店舗様

STAFF

加藤 シュンスケ (代表) 会社員 / イラストレーター (@kato_two)
 私にとっての忘年会は、一年を忘れる機会というより、もはや忘年会でしか会えなくなった疎遠な友人と会うという意味合いの方が強い。七夕を迎えた彦星のテンションですわ。

サリー志村 (編集長) 編集者 (@shimamuramasari)
 今年のベスト。映画:『海街diary』/『バードマン』、書籍:岸政彦『断片的なものの社会学』、音楽:cero『Obscure Ride』/ Kendrick Lamar『To Pimp a Butterfly』、マンガ:東村アキコ『東京タラレバ娘』。

オオキ 長男 (@OhQute)
 今年に入ってからバーで飲む機会があったり、だんだんお酒を楽しめるようになってきました。大人になったのか、それともオッサンになったと言えきか。忘年会にかこつけて色々なお酒を飲んでみようかな。

おぎぬまX 元芸人 (@oginuma_x)
 以前、友人同士の忘年会で居酒屋の中で一発ギャグを強制させられたことがあったのですが、直後に店内が静まり返り、友人たちも謝りだして、店員さんに頼んでもない焼酎を渡されたことがあります。そりゃないよ...

安原マヒロ ファッション誌編集 (@MahirOrihaM)
 飲み屋じゃない店で飲むのって、日常の中の非日常感があって好きです。おすすめは青葉台駅前の日高屋。ラーメンチャセットでちびちびやるのが最高です。

★誌面広告、スタッフへのお仕事の依頼も受付中!

こどもの国系情報誌「国マガ」Vol. 33
 発行日 2015年12月5日
 編集 安原マヒロ
 連絡先 kunimaga920@gmail.com
 ホームページにてバックナンバー配信! → http://kunimaga.jimdo.com/

Facebook twitter
 Twitter ID @kunimaga920